

洛和会丸太町病院での 配茶業務の業務改善

洛和会丸太町病院

TQM委員会 Cチーム

中野匡徳 岩田沙織 小林侑里

はじめに

業務改善前の病棟の現状

- ・長年にわたり毎食ごとの配茶業務は看護業務として手をかけてきたが、現在ではモーニングケアや他の必要な患者ケアにも影響していた。

配茶業務の問題点

- 1.配茶による業務負担
- 2.コロナ禍での感染リスク
- 3.取扱者の火傷、異物混入による安全管理リスク

取り組み①

①配茶に関するリスク、 コストや時間の再確認

- ・配茶業務を行うことで、コロナウィルス等の感染リスクの発生。
- ・看護師の業務の入れ替わりの時間帯（朝食時、夕食時）は人員が日勤時よりも少なく、他業務もあり業務の圧迫も。

取り組み②

②配茶サービスの廃止に伴い、 代替え案の検討

- お茶は原則、患者さん各自で準備
→自動販売機（お茶、水のラインナップ増）
- 売店の利用、家族の提供など。
- 入院セットにペットボトル飲料を組み込む。
(業者と看護部、経営管理課、管理課と打ち合わせを実施)

取り組み③④

③患者さん、御家族への説明、周知

- ・病棟掲示板、院内に掲示物を設置。
- ・入院案内書類に案内書類を入れる。
- ・入院中の患者さんへは、病棟より説明。

④病院職員への周知徹底と協力体制の構築

- ・患者サービス検討会議、医局会、幹部会、師長会で周知。

取り組み⑤

⑤個別事情への対応検討

- ・水分制限、トロミ対応が必要な患者さんは病棟の方で個別対応
- ・家庭の事情等で金銭負担が難しい場合には、管理課、病棟相談員とも連携を図る。

→全ての取り組みに着手した後に、
看護部に**効果判定**を実施した。

効果判定

【アンケート対象者】

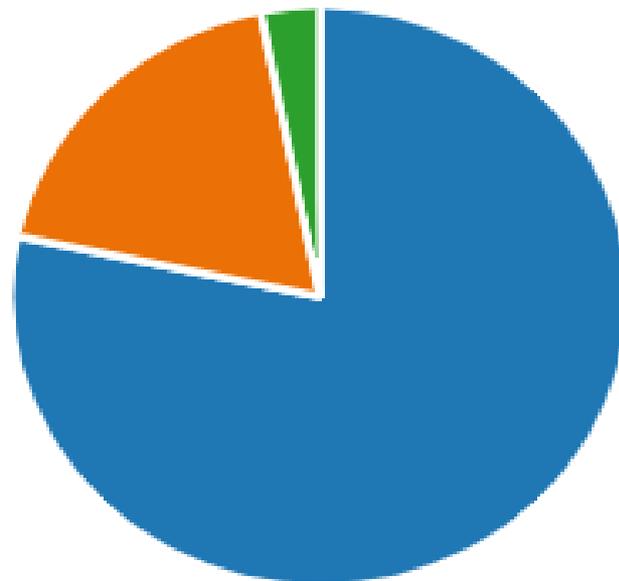
病棟看護師、クラーク
(HCU、2病棟、3病棟、4病棟)

→計97名に対しアンケート調査実施。

アンケート結果①

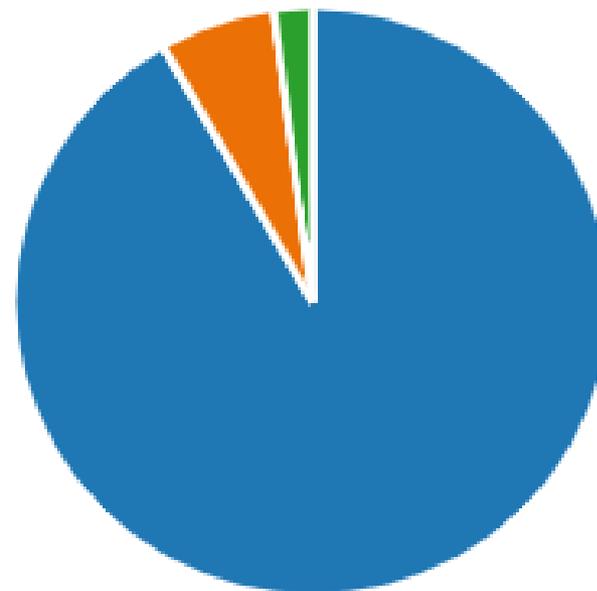
1. 集団に配りまわる感染のリスクはなくなったと思う。

- はい 76名
- いいえ 18名
- その他 3名



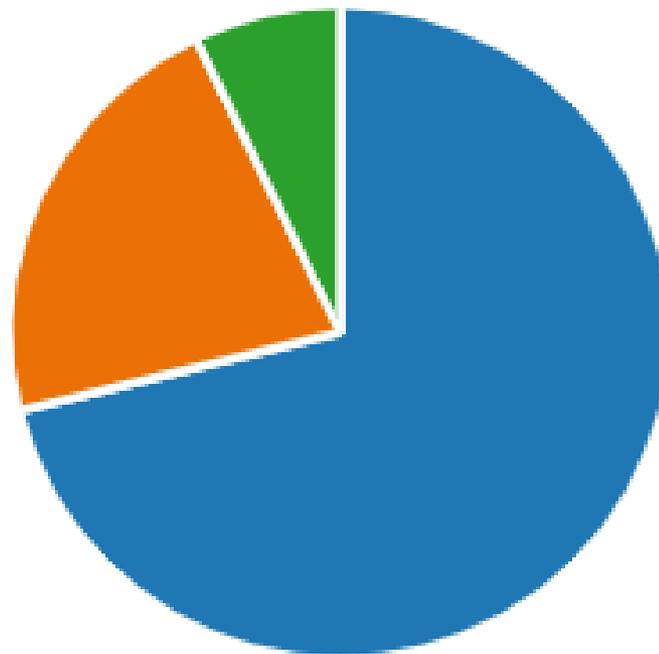
アンケート結果②

2.薬や異物の混入による集団被害やお茶が熱すぎた場合の火傷の心配がなくなった



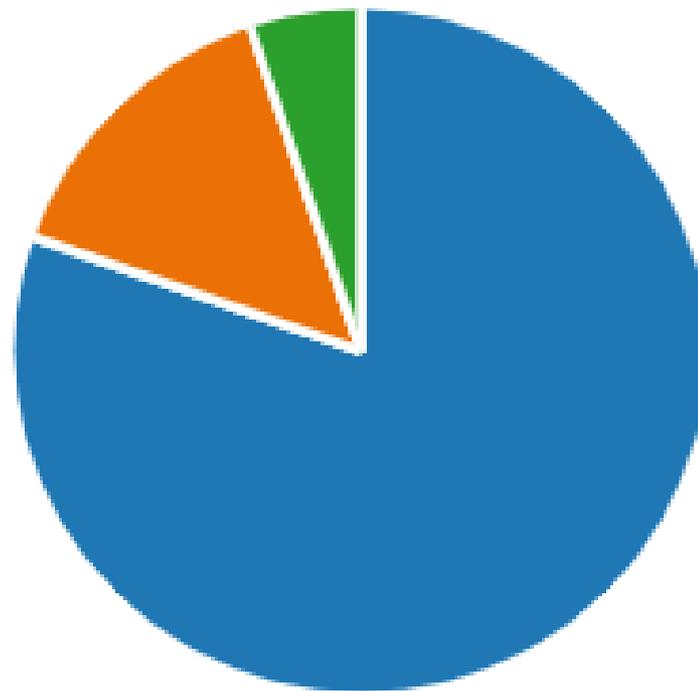
アンケート結果③

3.毎食事の配茶業務に係る時間がなくなり、
他の看護業務を行うことが出来るようになった



アンケート結果④

4.配茶に関するコスト減となり、配茶の物品、請求業務がなくなった



アンケート結果⑤

5.配茶の廃止に取り組んだ中での無形効果、波及効果についてあてはまるものに☑をしてください

- 配茶という業務を他職種にしてもらえてよかった。
- 配茶業務がなくなり、毎食事の食事介助にゆとりがうまれた。
- 入院セットの見直しにつながり、入院生活に必要なものが充足された。
- 配茶業務の廃止を考えることで全体の看護の見直しにつながった。
- その他

アンケート結果⑤

- 配茶という業務を他職種に... 36
- 配茶業務がなくなり、毎食事の... 27
- 入院セットの見直しにつながり...33
- 配茶業務の廃止を考えることで...24
- その他...5



考察

- ・配茶業務がなくなることで他の看護業務を行うことが出来るようになったに対して、7割が「はい」と回答。

→配茶に要していた時間が他の必要なケアに時間をかけられるようになり、
全体の**業務の効率性**も高まったと考察する。

- ・看護部の業務を多職種にシフトしてもらえたが4割の回答。

→「配茶」について他職種が集まっているTQM委員会で意見交換したことで、院内での各セクションの働きかけや、院外の業者とのやりとりなどが他職種で関わる事ができ、**「業務の見える化」**に繋げることも出来たと考える。

結論

配茶業務の廃止を進めた事によって

- ・ 看護師の**業務軽減**
- ・ 患者さんへは**衛生面、安全面の担保**

相乗効果が得られた

サービスの改善となった。

ご清聴ありがとうございました